

## 傘寿からのアコーディオン

< 呆けないための新たなる挑戦 >

篠崎 辰夫

新型コロナの特別給付金でアコーディオンを購入した。折角の給付金なので、何か今後の為になるものを購入しようといういろいろ考え、アコーディオンに挑戦することにした。楽器は、高齢者の健康維持や老化、認知症予防に効果があると言われていた。我が楽器遍歴の最終章を飾るのにもふさわしい。善は急げ、給付金より先に物が届いた。



早速、節目の年の新たなる挑戦！と、勇んで始めたが、思っていたより手強い。何しろ、右手・左手・蛇腹と、同時に三つのことをやらなければならない、頭がそれらでいっぱいになってなかなかタイミングが合わない。それに重くて疲れる。腰痛がぶり返しそうと、だんだん弱気になってきた。

これじゃいかんと気合いを入れ直し、猛練習？が始まった。ちょうどコロナの外出自粛中で時間はたっぷりある。暇つぶしには丁度いい。教則本を頼りに1小節ずつ区切って根気よく練習していくうち、だんだん慣れてきた。慣れるにつれてこの楽器の特徴、良さがだんだん分かってきて面白くなってきた。

右手の鍵盤は、これまでピアノやキーボードで多少経験あるが、左手側にズラッと並ぶボタンは何なのか謎だった。本格的なものは120個もある。初心者用なので60個だがそれでも多い。このボタンでベース（低音）やコード（和音）を鳴らし、右手のメロディーに伴奏をつける。隣り合うボタンは、良く使うコードが隣接している合理的な配列になっている。和音（3音）がこのボタンひとつで弾けるのもいい。ただ、演奏中はこのボタンは全く見えない。覚えるしかない。

この配置さえ覚えれば、伴奏は自由自在に出来る（はず）。上手い人の演奏を見ると、いとも簡単に気持ちよさそうに弾いている。YouTube 動画でもお年寄りが上手に弾いている。自分に出来ないはずはない！ と言い聞かせ、ふるい立たせている。

早くマスターするために、練習の過程をビデオに記録し、YouTube に投稿、世に晒して自らを追い込んでいくことにした。それをホームページの「趣味倶楽部」にも掲載させて頂いた。夢は大きく、これらを励みにしながら進めていこうと思う。

今夏、10年以上続けてきたボランティア楽団を、メンバーの高齢化で解散した。これからは、アコーディオンで「ひとりアンサンブル」を楽しもうと思う。今回の新型コロナウイルスが、呆けないための新たな挑戦と今後の楽しみを与えてくれたような気がする。まさに「禍（わざわい）転じて福と為す」。「With コロナ・With アコーディオン」。

(2020/09/20)

・ホームページ「趣味倶楽部」< 傘寿からのアコーディオンの記録 >

<http://www.hishinomi-gunma.sakura.ne.jp/~hishimig/syumi-acco-index.htm>